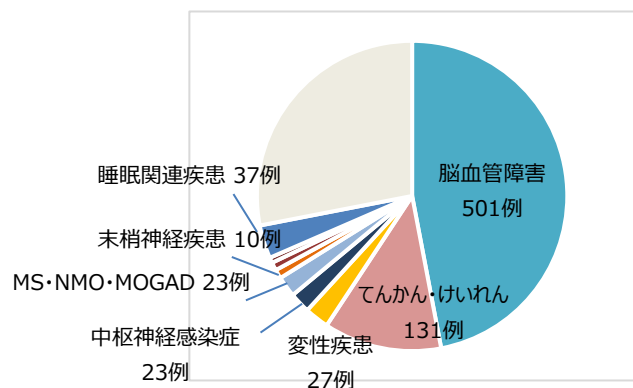


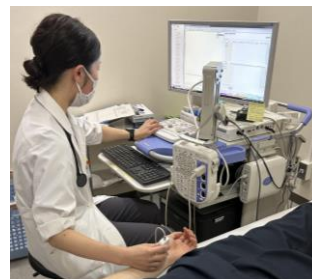
名古屋医療センター 脳神経内科 後期研修医募集

当院は地域の基幹病院として神経内科疾患全般についての診療をおこなっており、救急疾患から変性疾患まで様々な神経疾患を学ぶことができます。昨年度の神経内科入院患者総数は 1066 例で、その内訳は脳血管障害 501例、てんかん・痙攣 131例、パーキンソン病や ALS など変性疾患 27 例、髄膜炎・脳炎など感染症 23例、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎、NMOSD など 23 例、末梢神経障害10例などでした。脳静脈洞血栓症、肥厚性硬膜炎、クロイツフェルト・ヤコブ病など比較的稀ではありますが、臨床的に重要な疾患も含まれています。脳卒中に関しては 1例ごとに病型診断、画像所見を大切に、エビデンスに従った治療を行うことを心がけています。

入院 年間 1066 例のうちわけ



週 1 回リハビリテーションチームとの脳卒中合同カンファランスを行い、患者さんの病態の検討、治療方針の確認、機能的予後などの検討を行っています。また、脳神経外科の血管内治療チームと連携して脳梗塞の超急性期治療にも積極的に取り組んでいます。機能外科チームとの協同ではてんかん診療、パーキンソン病診療にもあたっています。後期研修医時代はこうした多くの患者さんを担当し、脳波、筋電図、頸動脈エコーなどを専門の指導医から学び、後期研修修了時には神経内科専門医を受験することが十分可能となります。



後期研修の間に、電気生理検査や頸動脈エコーの基本的な手技を習得して、一人で検査が行えるようになります

また、同じ国立病院機構の東名古屋病院とも連携しており、内科専門医研修制度の中で東名古屋病院で神経難病の診療を中心として研修をすることも可能です。脳神経内科常勤スタッフは 8 名で、神経内科専門医 4 名、てんかん専門医 1 名、神経生理専門医 1 名がいます。常時2-3名の内科専攻医も加わり、和気あいあいとしたチームです。治験や臨床研究、学会発表にもとりくんでいます。

スタッフはみんな協力してよく働きますが、夏休みシーズンにはそれぞれ 1 週間ほどの休暇をとって旅行などを楽しんでいます。やる気のある仲間を募集しています。ぜひ、一緒に頑張りましょう